和服に関する研究（第2報）

既製和服の丈寸法と体型との関連

古川智恵子・豊田幸子

A Study on Japanese Clothes (II)

Relations between Length of Ready-made Japanese Clothes and Body Type

C. FURUKAWA and S. TOYODA

緒　　言

第1報においては，既製和服に対する消費者意識と実態につき報告したが，既製和服に対する消費者の認識度はいまだに低く，またサイズ面，材質面などの不満意識も多い事が調査の結果でみられた．したがって，今回は消費者サイドから既製和服の問題点である構成寸法，すなわち，身丈，袖丈，裄等の丈寸法と体型との関連について調査研究を行ない，今後の衣生活及び和裁指導上における参考資料を得ることを目的とした．

方　　法

1．調査の時期及び対象は，1978年6月～1979年6月で，既製大裁女物浴衣及び袷長着の構成寸法について，東海三県下の百貨店及び専門店を対象に調査した．

2．短大家政科被服コース学生107名の身体計測を行なった．

3．既刊和裁書における割出し法による丈関係の寸法指標を作成した．

以上の調査結果より，既製和服寸法と体型との関連性について比較検討をした．

結果及び考察

1．既刊和裁書による区分別割出し方

既製和服の丈寸法考察の指標を得るために，既刊和裁書12冊による項目別割出し方法をまとめ図1に示した．

2．身体計測結果

(1) 全国女子標準体型について

表1は1971～72年の工技院成人女子20才及び若年，中年，老年各層の全国平均の身体計測結果である．これによると，20才平均の体重は51kg，身長155cm，腰囲89cmであり，ローラー指数は1.3である．若年層では身長約153cm，中年は約151cm，老年は約149cmと加令するごとに身長は低くなる傾向がみられる．又腰囲は20才平均及び若年が約89cmで，中・老年は約91cmであり，加令するにつれて増大する傾向がみられ，身長とは相反する傾向がみられた．したがってローラー指数は20才が1.3で，若・中・老年になるにつれて1.4，1.5と増大の傾向が認められる．

(2) 本学学生の身体計測の結果

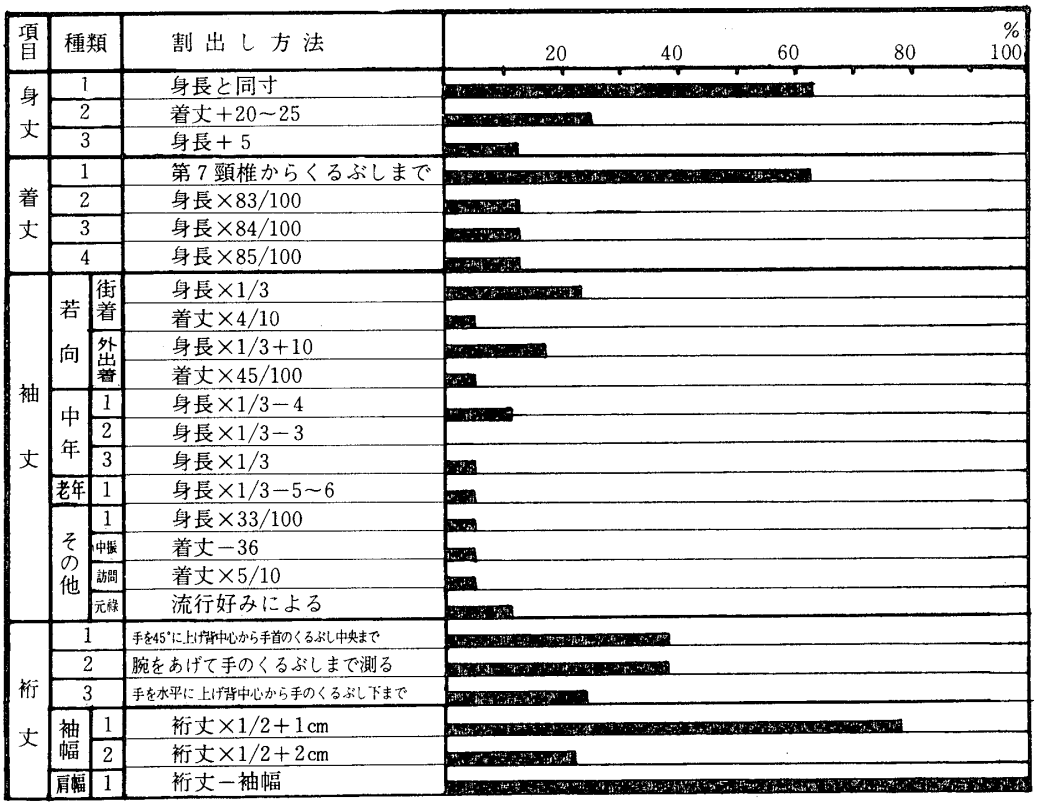

図1　既刊和裁書による項目別割出し方一覧（女物単衣・袷長着）

表1　成人女子の年令層別身体計測結果

—1971～72．工技院資料—

項目＼年令層	20才 $n=500$		若年(25～39才) $n=300$		中年(40～54才) $n=300$		老年(53～65才) $n=100$	
	$\bar{x}$	s	$\bar{x}$	s	$\bar{x}$	s	$\bar{x}$	s
体　重　kg	50.6	5.5	50.6	6.8	52.5	6.6	51.3	7.2
身　長　cm	154.6	4.8	153.3	5.2	151.2	5.1	149.5	4.4
腰　囲　cm	88.9	4.0	88.7	4.9	91.4	5.1	90.8	5.9
ローラー示数	1.3	0.1	1.4	0.2	1.5	0.2	1.5	0.2

本学被服コース107名の学生につき，身長，体重，腰囲，裄の身体計測の結果を表2に示す．表1に示した全国平均20才女子標準体型との比較では，体重は本学学生の平均値は約50kgで，標準より1kg少なく，身長は157cmで2cm程高く，ローラー指数では1.26で全国平均値よりやや小の結果が認められた．しかし腰囲では差はみられなかった．裄丈寸法は66.5cmと長い傾向がみられた．

表2　学生の体型計測値

部位＼値	平均値	標準偏差値
体　重　kg	49.5	4.2
身　重　cm	157.2	4.5
腰　囲　cm	89.1	3.6
裄　cm	66.5	2.47
ローラー示数	1.26	0.12

$n=107$

3．既製和服の調査結果

(1) 身　丈

東海三県下のデパート及び専門店における大裁女物浴

衣143枚及び袷長着186枚の身丈の寸法調査結果の分布を図2に示す.

身丈では155cmが46%と最も多く，ついで160cmが20%，158cm 16%の順にみられた．既刊和裁書では，身丈は身長と同寸とする方法が高率である．したがって20才女子標準身長が155cmであるところから，既製和服の身丈155cmのものが多く製作されているものと考える.

次に身丈について浴衣と袷長着にわけての分布を図3に示す.

浴衣では，155cmの身丈が約67%と半数以上をしめ，ついで160cmが15%，158cmが10%の順にみられた.

袷長着では，同じく155cmの身丈が約30%，ついで160cmが24%，158cmが20%と浴衣と同傾向がみられた.

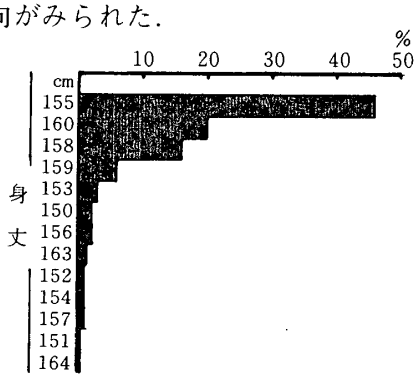

図2　女物長着身丈全体（袷・浴衣）

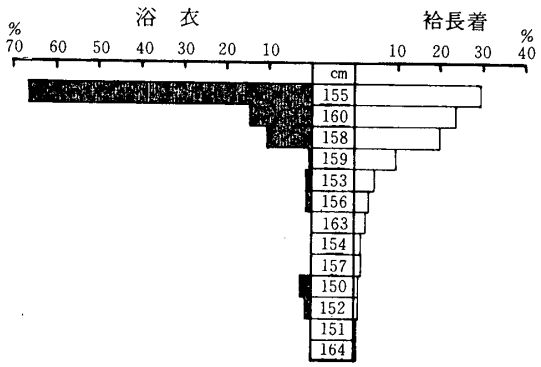

図3　身　　丈

(2)　袖　　丈

浴衣及び袷長着全体の袖丈出現分布を図4に示す．袖丈においては49cmが44%と最も多く，ついで47cmが16%，第3位は45cm，46cm，50cmの3種がみられた.

次に浴衣，袷長着別に袖丈の分布を図5に示した.

浴衣，袷長着ともに第1位は49cmで，浴衣40%，袷48%と同傾向であるが，袷長着は，第2位47cm，第3位46cmと元禄袖の短かい袖丈がみられた．これは浴衣は湯上り着又は普段着としての性格が強く，機能面から当然のことと考えられる.

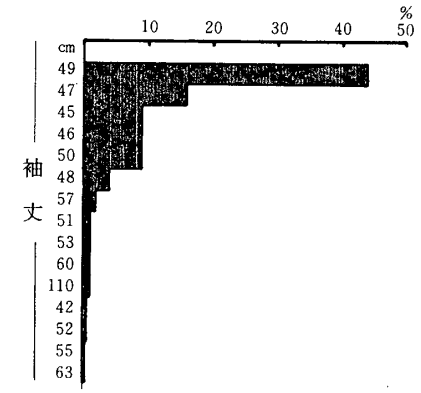

図4　女物長着袖丈全体（袷・浴衣）

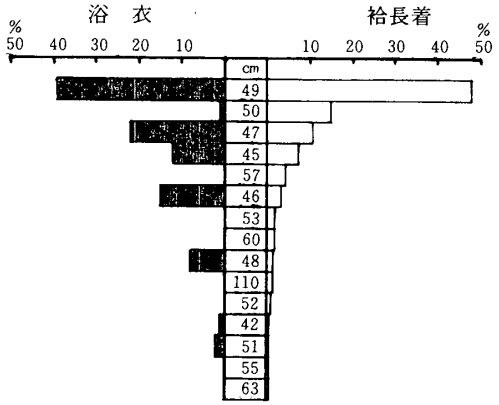

図5　袖　　丈

(3)　身丈・袖丈の関係

1）服種別に身丈・袖丈を見た場合

①浴　　衣

浴衣の各身丈について，袖丈がどのような分布を示すかについての結果を図6に示す.

浴衣については，第1位の155cmの身丈では袖丈寸法47cmが多く，ついで46cm，49cmの順位

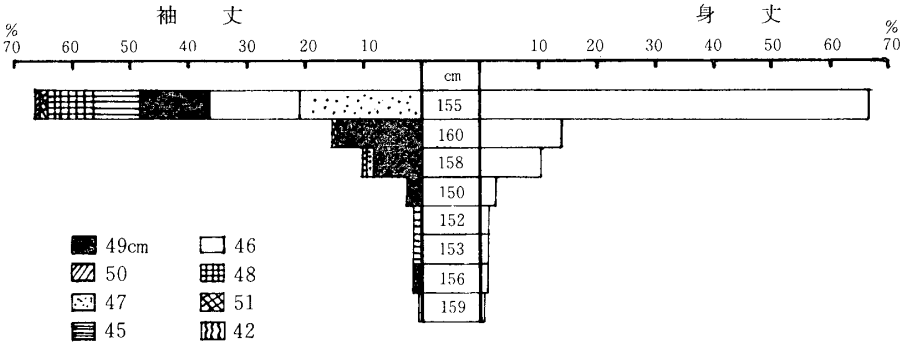

図6　浴　　衣（身丈・袖丈）

に見られた．第2位は160cm，第3位は158cmで，この身丈においても49cmの袖丈が第1位を示した．

②袷 長 着

図7は袷長着の身丈と袖丈の分布の関係を示したものである．第1位の155cm，第2位160cm，第3位158cmのいずれの身丈も袖丈は49cmが最も多く，次いで50cmである．

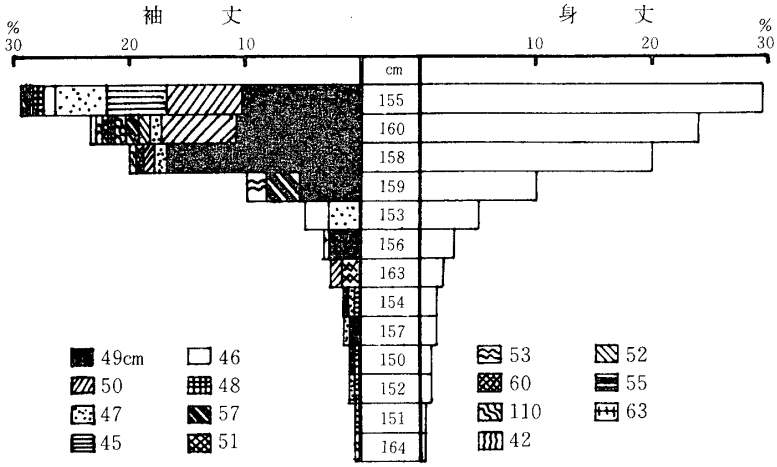

図7　袷 長 着（身丈・袖丈）

2）年令層別に身丈・袖丈を見た場合

図8は若年，中年，高年の年令層別に袷長着の身丈に対する袖丈寸法の出現率を示すものである．

年令層別の区分け範囲は第1報に示した．若年は22～35才，中年は36～50才，高年51才以上とした．図6及び図7は年令層を全部まとめた服種別のみの，身丈，袖丈の関係をみたものであるが，ここでは年令層別にわけた女物袷長着の身丈，袖丈の関係をみた．

女物袷長着の調査枚数は，若年用59%，中年用27%，高年用14%の割合である．

①若　　年

若年では，身丈は155cm，160cm，158cmの順で，いずれも袖丈は49cmが最も多く，ついで50cm，47cmの順にみられた．これは，従来，標準体型の場合の袖丈寸法は1尺3寸（49cm）がよいという固定観念が浸透していて，最近の体格が向上し，標準寸法が増大していても袖丈寸法のみは以前のままの寸法をそのまま使用し，身長の1/3を規準丈にすると比率上よいという考え方がまだ身についていないのではないかと考えられる．

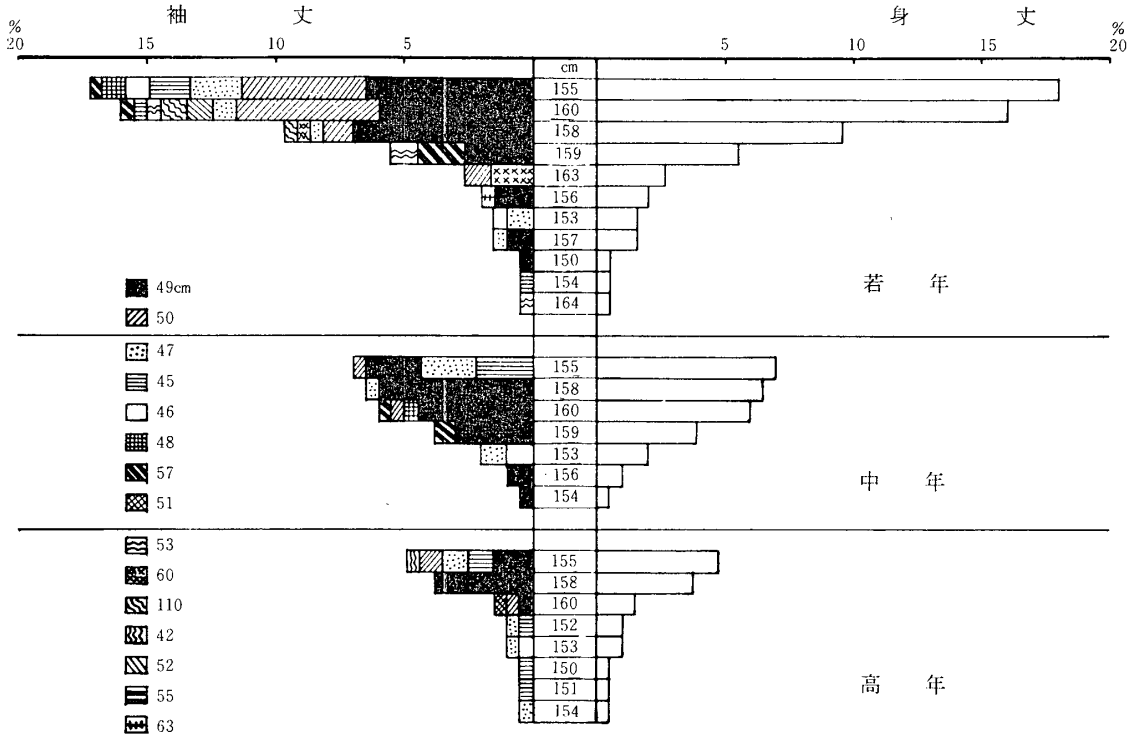

図８　年令層別身丈・袖丈構成寸法の比較（袷長着）

②中年・高年

中・高年の身丈は，若年層と同様に155cmの標準の長さのものが，最も高率をしめ，次に158cm，160cm，159cmの順にみられる．中・高年の155cmの身丈の場合，袖丈寸法は45cm，47cm，49cm丈が大体同率をしめている．その割合は身長/3－７，身長/3－４，身長/3－２と基準丈丈（身長/3）より短かい袖丈寸法で構成されていることがみられた．

図１に示す既刊和裁書における高率を示す袖丈寸法の割出し法における中・老年の場合，身長/3－３～４，身長/3－５～６であるから，調査結果における今回の既製和服の中・高年向の袖丈は，ふさわしい丈で構成されているものと考える．

次に身丈については，中・高年の身長は全国平均値では約151～149cmである．これに対して既製和服身丈は155cmが最も高率を示しているが，これは中・高年ではローラー指数が若年よりも大の傾向がみられる．したがって肩の厚み等に着込む分量として必要であり，又和服独特の着装形式により，おはしょりで着丈の調節が可能な為に，身長より和服身丈が４～６cm長い寸法が必要であると考える．ゆえに中・高年向に155cmの身丈が高率を示したものと思われる，

又他の理由として，量産者側でも細かいサイズにわけて裁断することは，手間がかかり，能率も悪く，コスト高になるので，最大多数の人に用いられる寸法として，この155cmの身丈寸法のものを生産するのであろうと考察する．

(4)　裄丈について

１）裄丈・身丈の関係

①浴　　衣

女物浴衣における裄丈・身丈の関係を図９に示す．裄丈の出現順位は，最も高率を示したのは64cmで，次に65cm，65.5cmである．それを身丈との関係でみると，身丈155cmは裄丈64cmのものが最も多く，ついで65cmであった．第２位に出現の多かった身丈160cmでは裄丈64cmが少

なく，65.5cmが多くみられた．

②袷 長 着

袷長着の裄丈・身丈の関係を図10に示す．裄丈は浴衣と同じく64cmが最も多く，ついで65cm，64.5cmの順にみられ，他は62cm，63cm，66cmにばらついていた．身丈との関係においても，身丈155～160cmの間には64～65cmの裄丈の分布がそのほとんどをしめ，浴衣と同傾向がみられた．

本学学生の身体計測値と比較してみると，学生は身長157cm，裄66.5cmと標準値を上まわっているため，既製和服では裄寸法66cm以上のものはごくわずかしかみれない為に1.5～2.5cmの不足がみられる．

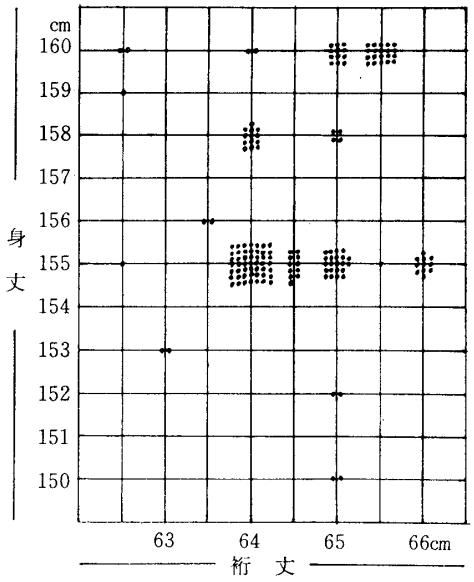

図9　身丈・裄丈の関係（浴衣）

2）裄丈を構成する袖幅・肩幅の関係

裕長着の裄丈を構成する袖幅と肩幅の関係を図11に示す．袖幅33cmと肩幅31cmの組み合わせが15.6％と最も出現率大であり，第2位は袖幅33cmと肩幅32cmが約10％，第3位は袖幅32cmと肩幅32cmの組み合わせ8％であり，出現の半数が袖幅は32～33cmに，肩幅は31～33に多く集中してみられた．

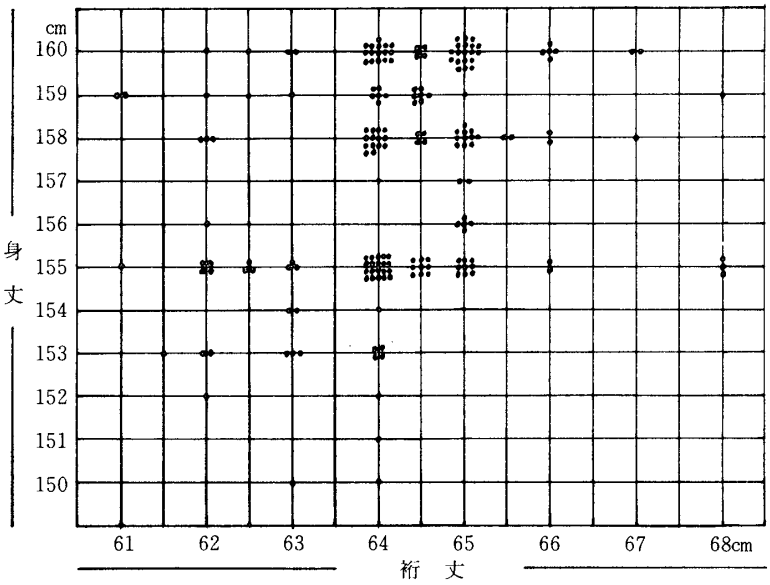

図10　身丈・裄丈の関係（袷長着）

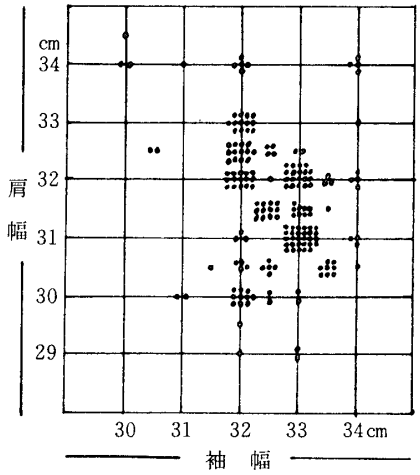

図11　袖幅・肩幅の関係

裄丈を構成する袖幅と肩幅の寸法差についてまとめ表3に示す．

肩幅より袖幅が2cm広いグループが26％と最も多く，ついで1cm広いグループが20％，袖幅と肩幅同寸のグループが12％，袖幅が肩幅より1.5cm広いグループが9％の順であり，その他は表3に示すとおり12の組み合わせに分散して分布がみられた．

図1の既刊和裁書での割出し方では，肩幅より袖幅が1cm広くする方式が第1位にみられたが，今日の若年層は身長や裄丈の発育が良い割に身幅はせまい体型である為，裄寸法は長く，かつ身幅を適合した寸法にする為には袖幅を肩幅より広く設定した方が，袖付の傾斜も少なくて仕立ても容易であり，身幅には支障なく出来るために，一般向の既製和服としては，肩幅より袖幅が2cm広い寸法が多く採用されているものと考える．

(5) 身丈・袖丈・裄丈の関係

今までの丈寸法すなわち，身丈，袖丈，裄丈の構成寸法の関係をまとめたのが図12である．

身丈は155cmが最も多く，袖丈は49cmが最も多かった．

身丈寸法の高出現順位は第1位155cm，第2位160cm，次に158cm，159cmの順位で，この身丈においては，どの袖丈においても，裄丈は64～65cmで構成されたものが70%をしめていた．低率の身丈153cm，156cm，163cm，154cm，157cm，150cm等においては，裄丈は62～64cmが70%をしめていた．

表3　裄丈を構成する袖幅・肩幅寸法の関係

種　　類	%
袖幅＋2　＞肩幅	26
〃　＋1　＞　〃	20
袖幅＝肩幅	12
袖幅＋1.5　＞肩幅	9
〃　＋3　＞　〃	7.5
肩幅＋1　＞袖幅	7
〃　＋0.5　＞　〃	7
〃　＋2　＞　〃	4
袖幅＋0.5　＞肩幅	2
〃　＋2.5　＞肩幅	2
〃　＋4.5　＞　〃	1
肩幅＋4　＞袖幅	1
袖幅＋3.5　＞肩幅	0.5
肩幅＋3　＞袖幅	0.5
〃　＋4.5　＞　〃	0.5
計	100

要　　約

大裁女物浴衣及び袷長着の既製和服における，身丈・袖丈・裄丈のサイズ構成について調査し，次の結果を得た．

1．身丈は10サイズ以上の分布がみられたが，若・中・高年ともに，155cmの構成が最も多く，次に160cm，158cmの順位であり，以上の3サイズで全体の約70%以上をしめている．低率を示したサイズは153cm，156cm，150cm，152cmであった．

既刊和裁書における身丈の割出し方は，身長と同寸法が体型に適合する身丈寸法として高率を示した．工技院資料による20才女子標準体格の身長は約155cmであり，既製和服での高率を示した155cmの身丈と同寸法で，妥当である．中・高年向においては，身長に対して約4～5cm長の身丈155cmが高率を示した理由として，

(1) 若・中・高年の加令につれて，ローラー指数は大きくなる

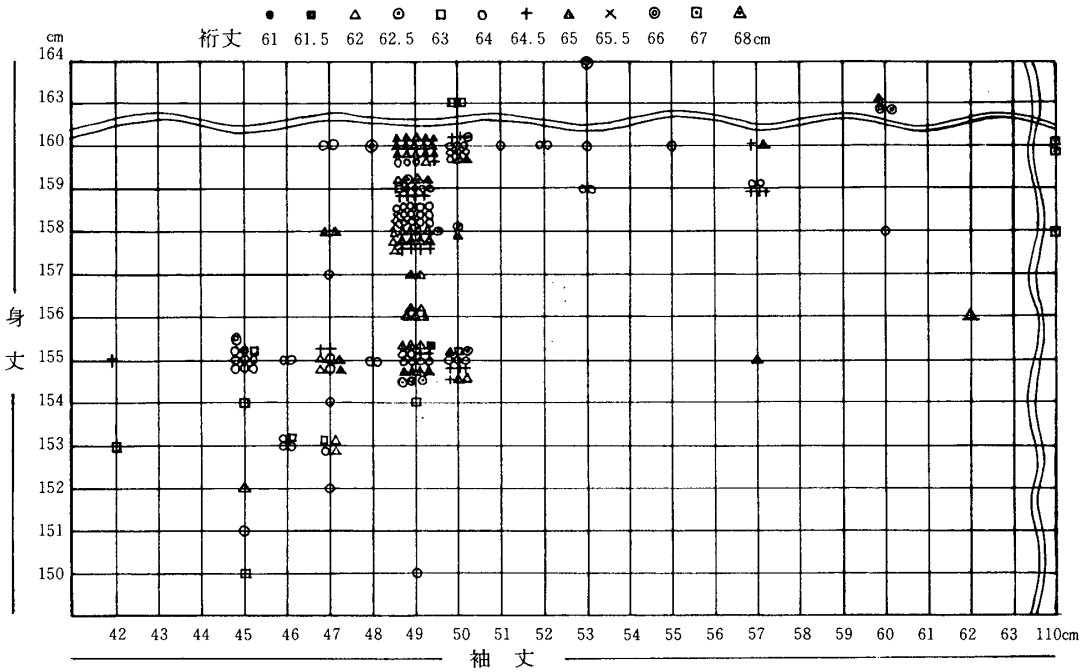

図12　身丈・袖丈・裄丈構成寸法の関係図

傾向を示し，中・高年の肩の厚みに要する寸法をアルファーとして身長に加算するため，若年と同寸法の身丈となると考えられる．

(2) 量産サイドからは，多サイズにわけて裁断する事は，手間がかかり，能率も悪く，裁断コスト高になる．

以上の理由から，量産サイドでは広く不特定多数に適合する身丈寸法として，155cm を多く採用しているものと考える．

2．袖丈では49cmが最も多く，次に47cm，50cm，46cmに分散してみられた．

既刊和裁書での袖丈の割出し方法は，身長との比率で計算する方式がみられ，体型適合寸法の若年向では身長/3，中年向では身長/3－3～4cm，老年向では身長/3～5～6cmが多くみられた．

既製和服についての身丈・袖丈の関係では高率を示した155cmの身長/3は約52cmとなるが，袖丈49cmが最も高率を示した．これは中・高年向には妥当な寸法と考えられるが，若年向にはやや短かい寸法と考えられる．この理由として従来からの慣習サイズの袖丈は，1尺3寸（49cm）がよいという固定観念があるために，量産サイドもこの袖丈寸法を広く採用しているものと考えられる．

3．裄丈は61～68cmまでの11サイズの分布がみられた．最も高率を示したのは64cmで，次に65cmである．

裄丈を構成する袖幅と肩幅の関係は肩幅より袖幅が2cm広いグループが最も多く26%，ついで1cm広いグループが21%であり，その他13グループに広く分布してみられたが，全体では袖幅を広くする方法が68%をしめた．

既刊和裁書の調査結果では，肩幅より袖幅を1cm広くする方法が高率を示したが，既製和服の実態では肩幅より袖幅が2cm広いグループが最も多くみられた．

この理由として，今日の若年層の体型を考慮し，裄寸法を長くかつ身幅を適合した寸法にする為には，袖幅を肩幅より広く設定した方が，袖付の傾斜も少なくて仕立ても容易であり，身幅には支障なく出来るために，量産側は一般向の既製和服寸法として，肩幅より袖幅が2cm広い寸法を採用しているものと考える．以上の理由からこの方に妥当性があるものと思われる．

本学学生の裄寸法計測値は，66.5cmであり，既製和服寸法に高率を示した裄寸法の64～65cmに対し1.5～2.5cmの不足がみられた．

以上今回は既製和服の丈寸法について検討したが，引続き次報では幅の構成寸法と体型との関連性について調査検索し，報告する．

参 考 文 献

1) 土井幸代：和裁，33-38，同文書院（1977）
2) 岩松マス他：和裁，122-125，講談社（1975）
3) 岩松マス：和服裁縫前編，47-56，雄鶏社（1974）
4) 清水とき：きもの全科，47-49，家の光協会（1974）
5) 清水とき：和裁全書，19-20，鶴書房（1974）
6) 大塚末子：新きもの作り方全書，68-69，文化出版局（1974）
7) 東京家政学院和服裁縫研究会：新和服工作上巻，32-33，光生館（1974）
8) 田京てる子：和裁の基礎，30-31，衣生活研究会（1977）
9) 織田稔子：やさしい和裁，96-97，主婦と生活社（1973）
10) 池部芳子他：新和服裁縫，453-455，建帛社（1979）

11) 奈良女子大学被服構成研究会：改訂裁縫要義上巻，270，東洋図書（1974）
12) 柳沢澄子：被服構成学，125-128，光生館（1979）
13) 水梨サワ子：被服構成学，101-114，朝倉書店（1978）
14) 高橋春子他：被服構成学，111-113，建帛社（1979）
15) 上田ひさ子他：華頂短大研究紀要，23，181-198（1978）
16) 川村キミ子他：相模女子大紀要，42，161-164（1979）